



令和5年度文部科学省委託事業
第1回 **リーディングDXスクール事業 公開学習会**

リーディングDXスクール
Leading DX School

開催日時： 7月6日（木）
14:30～15:30

事前申込フォーム
<https://forms.gle/eT1wojY8bE6mrzq17>
※講師等の準備の関係上、必ず事前申込をお願いします。


リーディングDXスクール事業 指定校の
実践事例から学ぼう！



【プログラム】（予定）
14:30～15:00 事例紹介
春日井市立高森台中学校 教頭 小川 晋
春日井市立藤山台小学校 教諭 久川 慶貴
15:00～15:30 質疑応答
ファシリテーター
春日井市教育委員会 教育研究所
教育DX推進専門官 水谷 年孝

※今後、プログラムは変更になる可能性があります。

春日井市立高森台中学校
教頭 小川 晋
春日井市立藤山台小学校
教諭 久川 慶貴
春日井市教育委員会 教育研究所
教育DX推進専門官 水谷 年孝



本日の流れ

- 1 はじめに
- 2 中学校実践事例紹介 小川
- 3 事前に頂いた質問にお答えして①
- 4 小学校実践事例紹介 久川
- 5 事前に頂いた質問にお答えして②
- 6 おわりに

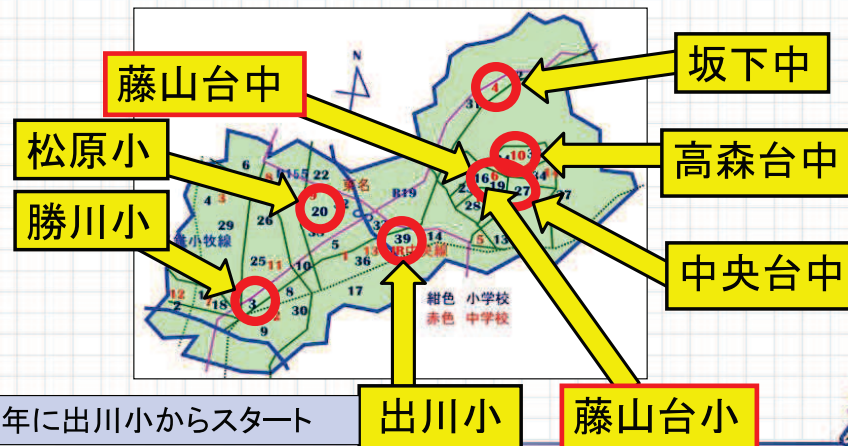


愛知県春日井市

- 人口約31万
- 児童生徒数
約26000人
(各学年 約2800人)
- 学校数54校
小38校 中16校
- 教職員数 約1700人



春日井市の実践の中心校 現在8校



最近の授業から



「30か月間の1人1台端末＋クラウド活用で大きく変化」



大きな目標の共有

生涯にわたって
自ら学び続けられること

+

一人一人を大切に

端末・クラウド活用による授業の変化

- ・活用する手段の多様化
- ・児童生徒の活動時間・データ量
コミュニケーションの増加
- ・アウトプットの量・質UP
- ・活動の複線化
- ・生徒にどんどん「委ねる」
- ・結果的に「教える」授業から
自ら「学ぶ」授業への変化

ポイント・情報活用能力育成



事前に頂いた質問から

- ①中学校でのICT活用を進める上でのポイント、児童生徒主体の授業づくりのポイント
- ②情報活用力の育成で小中一貫教育課程を作成する上で、工夫したことや苦労したことを教えてください
- ③クラウド環境の活用が日常的になる仕掛けを教えてください



事前に頂いた質問から

- ④児童生徒が主体となる授業観の転換のコツなどご紹介いただければ幸いです
- ⑤一斉授業から複線型の授業への転換は、まず何から取り組み始めると進めていきやすいでしょうか
- ⑥個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて、学校体制としてどのような取り組みをされているのか教えてください



事前に頂いた質問から

- ⑦校務の効率化や職員会議・研修等の改善には、教職員の意識改革が必要だと感じています。「まず、どこ」から取り組むとうまくいきやすいのか、教えてくださいたいです
- ⑧学校のDX化に向けて、多くの場合管理職のリードがあるかどうか、取り組みが進むか否かの大きな要因になっていると感じていますが、いかがでしょうか



日常業務 でも 日常的に 活用



児童生徒と同じ環境を同様に活用して初任者研修

5月26日

【オリエンテーション】

どんな目的で授業を参観するのか決めてきたことを、伝え合う

【授業参観】

授業を参観する

- 比べるながらみる・・・ex 発問の前と後、手立ての前と後の児童の様子 自分の対応と授業者の対応
- 多面的・多角的にみる・・・ex 子どもの立場で 教師の立場で
- 学習規律の面で ICT活用の面で 日常の学級経営の面で
- 個の学びの面で 単元構成の面で

気づいたことはメモしよう 「なぜ？」とはてなをもちながら参観しよう

【協議会】

- 授業をみて、「おっ！」と思ったことを短くふせんにメモする
- かいたことを説明する→話し合う
- ・どんな手立てが、どんな効果があったのか？
- ・自分の授業にいかせそうなことは？
- グループで話し合ったことを他のグループの人に伝え合う
- アンケートに答える

【全体会】

講演から理論も学ぼう・・・「おっ！」と思ったことにはこんな理由があったのか！

【ふりかえり（事後課題）】

学んだことを自分の言葉でまとめよう



生徒と
同じ環境を同
様に
活用した
初任者研修

↓

授業活用
も
同時に学ぶ

1人1台＋クラウド環境活用へ

GIGA環境を日常の校務・研修でどんどん活用を！

- ・ クラウドの活用体験
 ＝情報の共有のよさを体験
- ・ まず教員が便利さを理解
- ・ 授業活用の前に日常業務・研修で活用
- ・ 授業にこだわらずに、日常的にどんどん使う
- ・ 活用イメージをつかむ



本動画で紹介されている内容は、令和5年3月時点のものです。



GIGAスクール構想

1人1台端末の日常的な活用

(中学校編)



小学校編

<参考動画>
4月15日に文部科学省公式チャンネル/mextchannelで公開された動画
「1人1台端末で学校が変わる！」
中学校編
<https://www.youtube.com/watch?v=Tb7ioQRr53Q>
小学校編

文部科学省/mext...
チャンネル登録者数 9...

登録済み

ぜひ、ご覧ください！

市内6校で作成したGIGA環境活用実践事例集

ICTを活用するときの考え方

ここで紹介してきた事例からもわかるように、「こうすればよい」というノウハウ的にとらえてもなかなか実現はできません。むしろ「毎日授業のなかで実践し、でも考えていく」という、まさに授業の現場で日々の有用性を実感して、それを子どもたちに学習していくという考え方が軸にあります。この事例集の目的は、経験・教習での活用が先になっています。

また、個別の授業や学校の現場から授業での活用、という考え方は子どもたちにも伝えています。まず授業から始まるのではなく、授業外での活用でスキルを獲得させたり、便利さを体感させたりしてから授業での活用、という考え方が重要です。

以下では、1) のように授業での活用から個別での子どもたちの活用につながるべく、2) 子どもたちの生活全体でICT活用の様子を紹介したいと思います。

1) 学びを促した事例の共有から日々の学びの共有への発展は、各校の校内で中心者の役割を果たす事例の参加型によるスナッシュ（グループワーク）です。ここでは導入の目的の共有が最も重要な場で行われています。そうすることで各々の取り組みを知ることもできます。学習や授業改善を学際に行うことができます。授業や活動のメンバーでの「役割の分担」や「得意」のスキルやツールを各人が持ち、役割分担や授業でチャットを活用できるようになります。 このようにスナッシュを通じた情報は、打ち合わせや研修をチャットで共有できるようになりました。参加型打ち合わせの時間短縮のために活用されました。しかし、今では記録として残すための活用や、中間評価結果を活用した資料を掲載するといった活用が広がっています。 下の写真は、得意のメンバーで自主学習を行っている様子です。子どもごとスキルや得意な領域、得意なツールを共有し、得意なメンバーで得意な領域に活用することができ、学びを深めるだけでなく、得意なスキルや得意なツール上で記録が残るなどのメリットを感じています。

2) 部分的ではなく、学校での生活全体でICTを活用する

目的は個別の授業や学校の現場から授業での活用、という考え方は子どもたちにも伝えています。まず授業から始まるのではなく、授業外での活用でスキルを獲得させたり、便利さを体感させたりしてから授業での活用、という考え方が重要です。

以下では、1) のように授業での活用から個別での子どもたちの活用につながるべく、2) 子どもたちの生活全体でICT活用の様子を紹介したいと思います。

大人の学び・問題解決を想定するとICTは欠かせない

これまで、授業の活用から子どもたちの活用、生活全体での活用という考え方を紹介してきました。ここでは大人の学び・問題解決を想定するとICTは欠かせないという考え方を紹介したいと思います。ここで大人の学び・問題解決を想定するとICTは欠かせないという考え方を紹介したいと思います。ここで大人の学び・問題解決を想定するとICTは欠かせないという考え方を紹介したいと思います。